

## 隠岐島前地区にて発症したツツガムシ病の1例

よこ た かず ひさ たけ だ かず き まつ した たかし  
 横 田 和 久 竹 田 和 希 松 下 隆  
 しら いし ゆう こ しら いし よし ひこ  
 白 石 裕 子 白 石 吉 彦

キーワード：ツツガムシ病，隠岐島前地区

### 要 旨

症例は62歳男性。当院受診の9日前から発熱を認め、レボフロキサシンにて治療されたが解熱しないため、当院入院となった。入院後、右大腿に痲痺を認め、リケッチア症としてミノサイクリンにて治療し、治癒を得た。痲痺のPCRにてKarp型によるツツガムシ病と確定診断を得た。隠岐島前地区にもツツガムシ病は存在し、今後も注意する必要があると考えられた。

### はじめに

ツツガムシ病はかつて東北～北信越地方の風土病とされ、恐れられていた疾患であるが、近年、島根県を含む日本全国で報告されている。今回、我々は隠岐島前地区にて発症したツツガムシ病を経験したため報告する。

### 症 例

症例：62歳男性

主訴：発熱

既往歴：特になし

職業：渡船業

海外渡航歴：なし

ペット：猫

現病歴：当院受診の9日前から38度台の発熱を認めた。発熱以外に明らかな症状は認めなかったが、7日前に近医にて上気道炎として感冒薬が処方された。その後も発熱は持続したため、5日前にも近医を再受診し、体幹部に紅斑を認め、レボフロキサシン 400 mg/日を投与された。その後も解熱せず、精査加療目的にて当院紹介入院となった。現症：身長 160 cm，体重 55 kg，血圧 123/66 mmHg，脈拍 92/分，体温 39.2℃，呼吸数 16/分。結膜に黄疸や貧血なし。頸部・腋窩・大腿リンパ節の腫脹を認めず。肺にラ音を聴取せず。心音は整で雑音を認めず。腹部は平坦かつ軟であり、圧痛も認めなかった。体幹部・四肢には紅斑を認めた。手掌には認めなかった。

入院時検査所見（表1）：末梢血では白血球が10300/ $\mu$ lと上昇を認め、わずかに異型リンパ球